

クラウドコントロールの枠組み

クラウド環境のコンプライアンスニーズに対応するために

クラウドサービスの導入が急速に進む中、ITリスクを管理し、コンプライアンスニーズを満たすことがますます重要になっています。クラウド環境での商用サービス等の実施、規制対象システムの移行、大量データ保存の増加などにより、企業のクラウド環境全体に対して効果的にセキュリティとコントロールを展開する必要性が生じています。しかし、一般的なクラウド導入のアプローチでは、テクノロジー部門とリスク管理部門の間で連携が取れず、企業の包括的なビジョンへの対応、効果的なリスク管理、進化する規制要件への対応ができなくなることが頻繁にあります。



共通の課題について



責任共有モデルにおける考慮点

クラウドサービスにおける責任所在の理解不足は、クラウドサービス間の僅かな違いに対する理解不足と共に、企業が抱える共通の課題である。



企業のリスク選好と統制機能のギャップ

業界によって標準の複雑性に違いがあるものの、一般的にクラウド内の各機能を実装する際に、企業特有の要件とコンプライアンスニーズの整合がとられていない。



クラウドに関するスキル不足、トレーニングの実施、ナレッジの継承

新しいクラウド技術の導入には、主要なサービスの理解に加えて、組織のクラウド環境を保護するため何を採用し、活用できるかを正しく理解することが必要であり、そのための社員のトレーニングやスキル蓄積が必要である。



リスク&コンプライアンス部門とセキュリティ部門やIT部門の連携

リスク・コンプライアンス部門によるクラウド環境のコンプライアンス評価において、外部のサポート業者任せになっており、社内のセキュリティ部門やIT部門との効果的な連携が取れていない。



クラウドサービスプロバイダーのコントロールマッピング

多くのCSP(クラウドサービスプロバイダー)は、クラウド環境のセキュリティとコントロールを提供するためのさまざまなサービスを用意しているが、企業は自社の利用するクラウド環境に対して包括的かつ効果的に適用する困難に直面している。



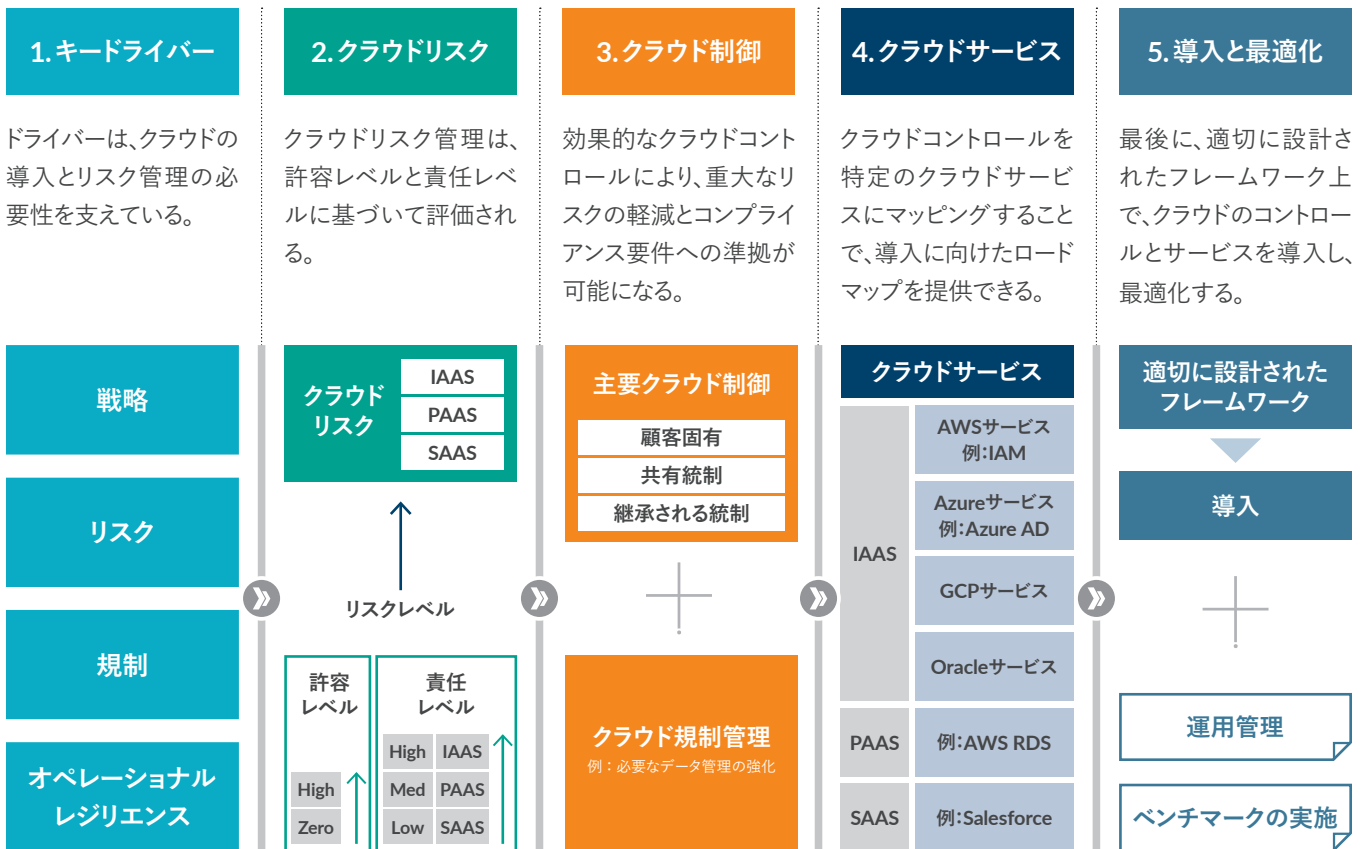
複雑で進化し続けるビジネス状況

絶えず進化するビジネス状況に加え、組織は、ハイブリッドクラウドの導入やスケーラビリティの懸念など、クラウド導入に関する新しい課題に対応しなければならない。

クラウドコントロールの枠組み

クラウドコントロールフレームワーク

クラウドコントロールフレームワークは、企業特有のビジネス要件やコンプライアンスニーズを踏まえた上で、クラウドのリスクを特定し管理するための包括的かつ構造的な方法を提供します。また、クラウドサービスの設計、導入、最適化にあたって、目的に応じたクラウドコントロール環境を設計し、コントロール活動を組み込み、自動化するための仕組みを提供します。



成果

クラウドコントロールフレームワークの適用により、変化する企業のリスクや、規制要件戦略的要件に対応するためのクラウドコントロールを、円滑に識別し、設計し、展開すること可能です。

クラウドコントロールの枠組み



提供されるメリット

クラウドコントロールフレームワークは、クラウドコントロールとサービスの迅速な展開、各種コントロールの自動化、刻々と変わる規制要件へのアジャイルな適応を実現します。当社のフレームワークは、以下の各項目を通じて価値を提供します。

企業の中核となる**ドライバー**(リスク選好、規制、戦略など)と、**さまざまなサービスタイプ**における典型的な**クラウドリスク**との関連付け



クラウドコントロールとサービスの**迅速な展開**と各種**コントロールの自動化**



一般的な**クラウドリスク**と、それを軽減するための**業界標準のコントロールのマッピング**(規制対象企業を含む)



業界標準のクラウドコントロールから**プラットフォームに依存しないコントロール**や**CSP固有のコントロール**など各企業に最適な**コントロールマッピング**



企業の**リスク管理**、**業務プロセス**、各種**テクノロジーの連携強化**



刻々と変わる**規制要件へのアジャイルな適応**

